

来迎寺地区

(新潟県長岡市)

- 計画期間 平成20年度～平成23年度
- 面積 985ha
- 交付対象事業費 716百万円
- 市人口 267,642人（地区内人口 7,700人）

ポイント

都市基盤の再生と
ひとに優しく
災害に強いまちづくり

地区概要

市民の暮らしやすさの視点に立った都市基盤の整備に加えて、災害に強い都市基盤の整備・再構築を行い、先導的なまちづくりの実現を目指す。

- 目標**
- ①都市基盤を形成する公共施設の再点検を行い、災害から市民生活を守るために必要な居住空間の再生・整備を図る。
 - ②地域住民・事業者・行政が協働して、来迎寺地域における都市基盤の再構築による活性化とまちの魅力づくりを図る。

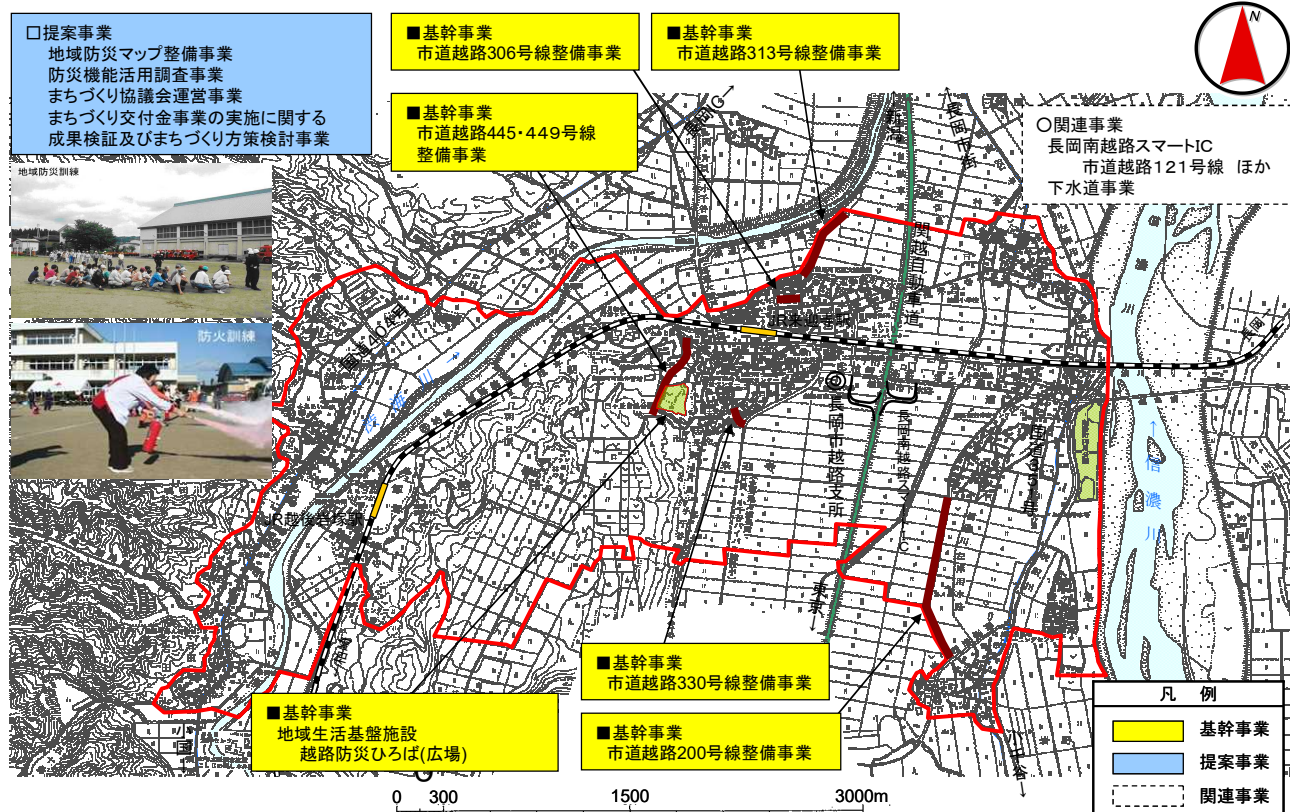
指標

市民の関心を高めながら、行政も一体となり、施設の活用方法の検討を行う。また、住民の意見をもとに、地域ニーズに即した整備を行うことにより、整備後に市民活動が数多く展開されることを目標とする。

自主防災活動参加人数	10人	(H17)	→	753人	(H24)
地域活動ボランティア参加人数	10人	(H16)	→	120人	(H24)
冠水区域の解消	30%	(H16)	→	0%	(H23)

事業内容

基幹事業（704百万円） → 道路（幅員7.0m～16.5m、延長2,601m）
地域生活基盤施設 広場（1カ所、20,000㎡）
提案事業（12百万円） → 地域防災マップ整備 防災機能活用調査 まちづくり協議会運営事業
まちづくり交付金事業の実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討



地区の現況と課題

- ①越路地域の中心拠点として、また市町村合併後の広域化した“新・長岡市”の副次的拠点整備区域として、周辺住民に限定しない利便性の高い防災拠点施設の整備が求められている。
- ②人口減少・高齢化が進んでおり、地域まちづくり経営における経済活力の保全等に必要な新たな活力及び、それらを創出する都市機能に関連する基盤施設の再生・再構築が緊急の課題となっている。
- ③都市型集中豪雨に伴う浸水被害が局部的に発生しており、河川改修事業（洪海川・須川）の遅延などにより、地域住民の浸水対策が必要とされていることから、水害対策に強い生活環境づくりが望まれている。
- ④少子高齢化の地域社会における自主防災活動の位置づけを明確にし、防災力の強化を緊急に図らなければならない。
- ⑤高齢者・障害者に対応する交通弱者対応など移動円滑化およびバリアフリーに関する基本構想をベースとした歩行空間の整備が不十分となっている。



都市型集中豪雨による浸水被害

提案事業の特徴

まちづくり協議会の運営

地域づくりにおける次世代を担う地域リーダーの育成を促進し、「越路・まちみらい工房」を中核とした、地域住民が主役となるまちづくり活動を実現することで、地域住民との協働体制の確立を図る。



越路・まちみらい工房の活動状況

地域防災マップ整備・防災機能活用調査

自主防災組織・越路・まちみらい工房が中心となり地域における災害危険箇所や浸水箇所等を調査・確認し、地区版の防災マップを作成する。自主防災活動の問題点や少子高齢化社会に対応する防災施設整備に関する意識調査を行い、それらに基づく自主防災活動の支援及び防災施設整備などの地域防災力の促進を図る。



自主防災活動の避難訓練状況

計画策定プロセス

地域防災ワークショップの開催

地域住民・町内会と越路防災ひろば計画についてワークショップを計3回開催し、防災に対する基礎知識から、防災ひろばの活用方法などについて意見交換した。ワークショップでの意見に基づき、地域の実情に対応する施設や地域防災活動を促進する。



市民が集う“ほたる”をテーマにしたイベント



地域防災ワークショップの様子

継続的な市民との対話

「豊かな自然を大切にしたいまちづくり」を掲げ、先人たちが築いてきた文化、都市整備及び観光資源を損なうことなく、新たなまちづくりを創造してゆくことを目的とする。また、まちづくり活動から湧き上がった“互恵の気持ち”を地域活動ボランティアの活動に広めてゆく。